

2021年3月期 第2四半期決算 電話会議での主な質疑応答（要旨）

- Q1：今回業績を上方修正しましたが、なぜ配当予想は据え置きとしたのですか。
- A1：Covid-19の世界的な再拡大など事業環境の先行きが不透明であることから、配当については通期の業績結果が判明した時点で改めて検討する予定です。
- Q2：現在は、航空輸送スペースの減少により航空運賃が上昇していることで営業利益が大きく増加していますが、平時の利益水準に戻る要因としては、旅客便の復便で輸送スペースが戻る事が一番のインパクトになりますか。
- A2：そのように認識していますが、航空輸送スペースの不足はしばらくものと続くと思います。一方で、お客様も通常より高い運賃を負担し続けることは経営に大きな影響を与えるため、モーダルシフトや在庫の積み増し等、今までと違ったサプライチェーン戦略を考えていかれることになると思います。それに対し当社もお客様にとってベストな提案していきたいと考えています。
- Q3：営業総利益率は上期実績で17.9%、通期予想で18.0%ですので下期も上期並みの収益性が保たれるようですが。現在の航空運賃原価と販売価格の状況について教えてください。
- A3：航空運賃原価は、4月から5月にかけてピークとなり、その後一旦下がりましたが、直近では再度上昇に転じています。一方、市場ではフォワーダーが自社で手配したチャーター便のスペースを埋めるため一部で割安のレートの提示も見られ、これが広まると値崩れが起こる可能性も考えられます。
- Q4：直近において、当社の取扱品目は、競合他社との比較で何か違いはありますか。
- A4：当社は半導体等エレクトロニクス関連品の取扱が多く、また、主な日系自動車メーカー、大手自動車部品メーカーとの取引もあります。但し、自動車産業は裾野が広く、部品メーカーとの取引はまだ十分ではないと認識しています。
- Q5：APLLの下期の営業利益予想は、米国でロックダウンが解除され需要が戻りつつある中では保守的ではないでしょうか。
- A5：APLLの業績は改善しつつありますが、米国ではCovid-19の拡大が続いていることもあり、保守的な予想値としています。

Q 6 : 海上運賃が高騰していますが、顧客への転嫁はできていますか。

A 6 : お客様も十分に現状を認識されており、ご理解を頂いています。

以上